

会 議 録

1 会議名

平成27年度第18回直江津区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【自主的審議事項】

直江津まちづくり構想について（公開）

3 開催日時

平成28年3月31日（木）午後5時00分から午後6時28分

4 開催場所

上越市レインボーセンター 第三会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 増田和昭（会長）、青山恭造（副会長）、竹内明美（副会長）、
池田伸吾、泉 秀夫、今井不二子、小林克美、田村利男、富塚 毅、
中澤武志、町屋隆之、丸山朝安、三上正子（欠席4名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：関川センター長、荒木係長、星野主任

8 発言の内容

【関川センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【増田会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：今井委員、小林委員に依頼

4「その他」の「直江津のまちづくりを話し合う女性の会」の開催結果について、事務局へ説明を求める。

【荒木係長】

・資料No.4に基づき説明

【増田会長】

説明に対し、意見等を求める。

【町屋委員】

話し合われた内容は分かったが、意見をどうするのか。

【増田会長】

「5 今後の取り組み方」に記載してあるとおりである。

【町屋委員】

いろいろな意見が出ているが、意見を一本化にしないのであれば、この意見をどうやって次の俎上に載せるのか。

【増田会長】

今回参加した方も含めて皆さんに呼び掛けて「こういう意見が出た」というまとめ方で、あえて、一本化にする必要はなく、いろいろな意見が飛び交う場を何回か作っていただけると良いと思っている。意見の中には「会を何回かやってもらいたい」という意見もあったので、そういう方向で進めたいと思う。

もう一つは、【自主的審議事項】と書いてあるが、観光に関することは、ほとんど網羅してあるが、高齢者の認知症の問題がある。今後の直江津まちづくり構想の中で取り上げて、話をしていく題材になるのではないかと思う。その中で、総合的に拾い上げていく。いずれにしても、言いつばなし、聞きつばなしにはしない、という方向でスタートしていることなので、そのように御理解いただきたい。

他の皆さんはいかがか。

(意見なし)

それでは、今、私が申し上げたような方向で、まとめていきたいし、次期委員の皆さんに「直江津のまちづくり構想」の中で、まとめてもらう項目がかなり入っているので、それも含め、出てきた意見は全て考えていく、というスタンスで進めて行く。おそらく、今年の10月くらいに、平成29年度予算に向けて、直江津のまちづくりとしてどうするか、ということはある程度まとめ、その中で、活かせるものは活かすということになる。予算だけではなく、住民の皆さんを含めて、どういうふうに進めて行くかが、論議の争点となると思う。そういうことも含め、一つの目安としては、予算編成時期までに、

一定の形にしていこうと考えている。委員の入れ替わりがあるので、それが終わり次第、改めて、「直江津区地域協議会は、こんなふうに取り組んで、これからは、こんなふうに取り組んでいくつもりである」という説明が必要であろうと思っている。

以上で、本件の終了とする。

次に、資料No.3、議題【自主的審議事項】「直江津まちづくり構想について」、前回からの継続審議について、資料に「素案」としてまとめた。若干説明が必要な個所もあるため、私から順次説明させていただき、意見等があったら、伺っていく。

素案の前文の「上越市第5次観光振興計画（案）」の「(案)」は、省いて提出しようと考えている。何故かと言うと、現在、パブリックコメントに出されたコメントに対する回答が、コメントを出した方に返送されているため、比較的早い段階で、(案)を取ることになると思う。

次に【考え方】と【方向性】について、意見等がある方はいるか。

(意見なし)

では、次に【具体的な取り組みについて】の「・市民及び市民活動団体と協働する」だが、前回、③で「直江津区観光振興市民会議」というのは、個人なのか、団体なのか、という質問が出たが、個人を中心に考えている。そして、この会議は何かと言うと、市民から自発的にやりたいという方々から手を挙げてもらい、運営は、そこに集まった方々から運営をしてもらおうと思っている。ここに記載した理由は、観光振興課に見てもらうために記載した。最初の会議は、「こういう会議を開催するので、集まってください」ということを、観光振興課からやってもらい、次回以降は、集まった方たちで話し合っただけ。これは、初めてのことだが、これについて、御意見等がある方はいるか。

【今井委員】

観光のことになると、観光振興課が中心となって行っていくべきだと思っている。観光振興課が市民と協働し、観光振興課の責任の下、取り組んでいただきたい。

【青山副会長】

「・市民及び市民活動団体と協働する」の『③直江津区観光振興市民会議』だが、我々は、「直江津区地域協議会」として活動しており、これまで実施した「直江津のまちづくりを話し合う会」など、直江津区地域協議会の中で取り組むことだと思うが、何故、このような団体を作らなければいけないのか。

【増田会長】

地域協議会主導で行うは考えではない。観光振興課が第1回目を主催してほしいという趣旨であり、青山副会長の発言のように、場合によっては、地域協議会が主導となり開催する考え方もある。

私が考えているイメージは、観光振興課に対して、観光振興課が主導してはどうかと提案するものである。

【町屋委員】

今話を聞けば、市民の意見の聞く場所を、観光振興課が持つべきだ、ということは、皆さん了解されると思う。ただ、ここに書いてある文言を素直に受け取ると、いろいろな方が手を挙げ、いろいろな方の意見が混在し、いろいろな方向性が出てくる中で、それにどんな力があるのか。そこに参加した人たちが「こうするべきだ」と言ったら、そこに従わなければいけないのか。それが、大勢の意見なのか。行政主導の場合、その団体の立ち位置はどうなるのか。不透明な点が多々あり、私たちも分かりづらい点がある。このような団体が出来て、そこを地域協議会として支援していく、ということは問題ないと思うが、それを、行政が作るべきか、参加した方たちの立ち位置はどうなのか、ということが分からないと、良いか、悪いかの判断すら難しい。

【増田会長】

資料にあるのは、仮の団体名で、ファン倶楽部的な存在であり、権限等はなしにした

い。

【町屋委員】

では、独自に作ればいいのか。

【増田会長】

独自に作ることができればよいが、誰が主導して活動をするかである。先ほどの青山副会長の発言のように、これまで地域協議会がいろいろな人を集めて、意見を聞いているのだから、地域協議会でやったらいいのではないかと、ということになれば、それは決して難しいことではない。観光振興課には「こういうものを作った」と言えばいいだけである。どのようにやっていくか、知恵を出していただきたい。

【青山副会長】

では、会長は、「観光振興課にこの様なかたちでやっていただきたい」と提案したいということか。

【増田会長】

そういうことである。

【池田委員】

行政だと、春日山や高田もあり、あまりにも範囲が広がってしまうので、必ずしも直江津の振興を盛り上げようという意気込みがないと思う。ファンクラブ的性格の会でも、しっかりと熱意を持っている人を集めないと、形だけで中身がない、ということになりかねないので、行政に全て任せてしまうのもどうかと思う。

【増田会長】

誤解がないように言っておくが、あくまでも、上越市全体を考えるファンクラブではなく、直江津を考えるファンクラブにする。審議会の委員のような感じではなく、同好の方たちを集めて、一つにまとめるというのが、そもそもの発想である。

【今井委員】

前に屋台会館の問題では、行政が委員を選出したのだと思う。それも、よく分からないうちに頓挫したので、行政は、あくまでも直江津の振興をどうするのかという責任に於いて、十分に意見を聞くという形が良いし、直江津を何とかしたい、という気持ちのある人が手を挙げて、やっていただければ、少しは進んでいくのではないか。今までのようなやり方では、進まない。糸魚川市や妙高市でもいろいろやっているが、上越市は遅れている気がする。私は、資料のような案は、とても良い案だと思う。これで推し進めていただきたい。

【中澤委員】

商店街・中心市街地活性化推進室にも似たような組織がある。町屋委員のように、思いが溢れ出てくる人が委員になってくれればよいが、こういうものを作っても整合性がとれない気がする。

【小林委員】

例えば、名立を活性化させるため、「名立駅マイステーション作戦実行委員会」があるが、水族館でもサポーターファンクラブみたいな具体的なもので、例えば、向日葵を植えたり、直江津駅前にプランターを置いたり、地域の方々がいろいろやっている。結局、市民会議を作っても何をやるのか、というところが見えてこない。

【町屋委員】

先ほど、今井委員の発言のように、いろいろな人を集めて、「とりあえず直江津区全体を大枠で考えましょう」と言っても、結局、個々の意見が出て、そこでまとまらず、喧々

囂々（けんけんごうごう）で終わってしまう。しかし、自分たちでやれる仕組みを作って、やりたい人がやりたいことをすればいい。個々にやりたいことが違うのに、話し合っても、潰し合いで終わってしまう。その人たちが横の連携として意見交換することはできるが、一つのことを決めるのは、難しいかもしれない。地域活動支援事業で、直江津の観光に特化して、団体支援として使えるようにしていったほうが、実務面では有効なのではないか。

【増田会長】

では、名称が悪かったかもしれない。「直江津観光ファンクラブ」という名称にしたい。やりたい人が集まってやる、というイメージである。

実は、ファンクラブの構想は「第4次観光振興計画」の構想内にあった。そこでは、直江津ではなく、上越市の観光が好きな人を集めてファンクラブを作っていた。その計画には記載してあったが、結局、観光振興課ではできなかった。

確かに皆さんが思っているように、なかなか進まないというのがあるかもしれないが、直江津が、自分たちで考えて、自分たちでやろうという組織を作らない限り、観光振興課に任せきりでは進まない、という発想があった。従って、直江津観光ファンクラブを作るという音頭取りを観光振興課からやっていただきたい、というのが私の発想だった。仮に、音頭取りを地域協議会でやろうということになれば、「こういう構想を持っている」という書き方にすれば良いと思っている。

【町屋委員】

そこは、先ほど、池田委員が発言したことである。直江津に特化したことをしてくれる訳ではないが、直江津がやりたいことをやる分には、何も問題なく、支援してもらいたい。

【今井委員】

私は、観光振興課の責任でやってもらいたい。

【増田会長】

一つは、責任ということだが、もう一つは、これまで担当課に任せきりでは進まないなので、私たちがやる、というところがある。そのやり方として、地域協議会が役割を果たすことができるのではないかと、そういう進め方もあると思っている。

【竹内副会長】

私も【具体的な取り組みについて】の③は理解していない。これまで地域協議会は、

各団体と話をしてきたので、「地域協議会」という名前を出さないと、観光振興課が動いてくれないような気がしている。できれば、私たちも市民団体の方たちと話し合う機会を多く作れば、市民の人たちが自分たちで作る意識が高まるのではないかと考えている。「ファンクラブ」というよりも、新水族館ができるまで、もう少し積極的に取り組んでいきたいと思っている。今までやってきた活動を、もっと勉強しながらやっていきたいと思っているので、「水族館を核としたまちづくりをするファンクラブ」みたいなものを作って、それをバックアップするような書き方が良いのではないかと考えた。

【関川センター長】

頸城区の「地域を元気にする事業」は、何年か掛けて形にしながらか、民間の方たちが一つの団体を作って、地域振興をやっていこうと実施したものである。今、いろいろお話を聞いていて、これもそういう感じなのかと思った。地域協議会でバックアップできることはあるし、今井委員の発言のように、観光振興課が一生懸命やらなくてはならないこともあると思う。意見書の書き方としては、「地域を元気にする事業を行うにあたって、市でも協力してほしい」というような意見の内容になるのかと思う。

【小林委員】

頸城区の観光協会の話だが、あれが、何故できたのかと言うと、コッペル号が核になったから立ち上げられた。そういう意味で言うと、先ほど、竹内副会長が言われた、「水族館を核としたまちづくりをするファンクラブ」というような具体的なイメージを与えないといけないと思う。頸城区は、コッペル号や周りにいろいろなものがあつたから、それをセットにして頸城区を売り出そうという考えなのだと思う。

今日、直江津鉄道振興会の役員会があり、平成28年度に直江津のポスターを作るという話になった。直江津駅の駅長が来られ、平成27年度に作ったポスターの話をしていたが、北越急行にも配布したところ、『直江津』というポスターが来たのは初めてで、非常に新鮮で感動しました」という声が魚沼のほうから届いているとのこと。このため、平成28年度はもっと良いポスターを作ろうという話になった。そういう意味で、直江津鉄道振興会は「鉄道のまち直江津」を売りにしていく団体だが、そんなふうの一つイメージが湧く形のものを与えたほうがよい。

【町屋委員】

大前提として、例えば、こういうことをした場合、観光振興課の感触はどうか、というのは、何もない状態なのか。

【増田会長】

何もない状態である。

【青山副会長】

観光振興課は直江津のやる気を見せてもらいたいと思っていると思う。それを援助するのは観光振興課である。ただ、小林委員が言ったように、具体的な提案がなく、ただやってくださいと言っても無理な話である。

【町屋委員】

ここでの私たちのキーワードは「水族館」である。全体的な観光を考えようとすると、水族館だけに特化した時、例えば福島城を絡める。少しぼかしておいたほうが、いろいろなことを絡められるので、水族館に特化しないほうがいいかもしれない。

【増田会長】

今ここで、細かいことを話していても進まないで、「②市民活動団体の観光を振興する活動に対して支援する」と書いてある。これは「してください」という意味である。「観光を振興する活動団体」というのは、「③」のような新しい団体を作ったらどうか、というイメージである。もう一つははっきりするのは、以前、団体の皆さんから集まってもらった時に、団体間の情報交換がなかった。地域活動支援事業の団体もそうだが、それぞれの団体が、それぞれの発想に基づきやっているだけで、情報交換に基づいてやっているものはない。イメージとしては、まちづくりやいろいろな団体を含めて情報交換の場を作るということである。その中で、いろいろな分野やいろいろなものが出てくる。一つの団体として、いろいろなものが出てくるといった時に、相手方に対しては、形が見えるようになる。そういうイメージできるものを、「③」のところで、例えば、「ファンクラブ的な団体が意図しているので、その団体については、支援してください」というような書き方をしておけばいいのではないかと。

【今井委員】

少し分からないので、端的にお願いしたい。

【増田会長】

イメージとしては「まちづくり団体及び個人の観光振興連絡協議会」のようなものを作る。その中で、一年目は情報交換をし、情報交換をする中で、一つの団体を立ち上げようという話になるかもしれない。とりあえず、いろいろなところと情報交換をすることから始めよう、ということである。考えていることを出し合い、どうしようかと話し

合って、一つの方向を定めていく、ということだと思う。

「③」については、「そのような団体を考えているので、支援してください」でよろしいか。

(異議なし)

では、次に「・直江津の魅力を発信する」だが、主語は「やっていただきたい」である。

【町屋委員】

そうであれば、これは、全て行政がすべきことにならないか。

【増田会長】

この意見書は、私たちが実際にやるべきことが出てくるが、まず、私たちが考えていることを行政に提案し分かってもらう、という意味がある。

他に意見がないようなので、次に進める。

「・案内看板等を整備する」についてだが、これは、要望として、すでに出してあることだが、その再確認、ということで記載した。これに対し、意見等はあるか。

【青山副会長】

案内看板や次の項目のおもてなしの話は、地域協議会の考え方の中にある話ではないか。

【増田会長】

そうである。

次に「・おもてなし施設等を整備する」だが、「④」の中に「観光振興市民会議」という文言が入っているが、これは、先ほどから意見が出ているので、削除したいと思う。

次に「・強調して発信する歴史資産、文化資産等」についてだが、私が思い付いたものを入れたが、追加項目等があれば出していただきたい。

【青山副会長】

「①と⑩」は国分寺、「⑤と⑧」も屋台があれば祇園祭であり、項目が重複しているのではないか。

【田村利男委員】

「①と⑩」については、管理者が明静院で、所有者が国分寺である。そして、⑩は「大日如来坐像」に変更していただきたい。

文章にするなら「管理者、明静院の大日如来坐像」にしていきたい。

【増田会長】

たぶん、田村利男委員の発言のような説明書きをしないと、理解出来ないと思う。国分寺は、大日如来坐像だけではなく、寺院を含めて全て、という意味で「国分寺」と書いた。あと、「日本海の眺望」という意見もあったので、追加しておきたい。

【池田委員】

「①五智の歴史」とあるが、居多神社や親鸞聖人の上陸の地だとか、そういう場所も追加できないか。

【増田会長】

「国分寺、親鸞聖人上陸の地、居多神社など」と括弧書きにしたいと思っている。

【町屋委員】

大日如来坐像に関しては、「明静院の大日如来坐像」では駄目なのか。所有者や管理者まで書かなければいけないのか。

【田村利男委員】

重文の分け方に、そのように説明してある。

【町屋委員】

所有者や管理者は必要ないのではないか。

【増田会長】

「所有者：国分寺」ではなく、「管理者：明静院」と書けば分かるのではないか。

【中澤委員】

「⑫句碑」に「歌碑、文学碑」を追加していただきたい。

【増田会長】

他に意見等がないので、次に進める。

「・港を活用する」の「①観光客船を誘致する」だが、前回、「クルージング」という話があった。大型客船だけではなく、他にもいろいろなものがあると思うので、「観光客船」と書いた。

全体の関連で意見等はないようなので、次に進める。

「・新水族館を活用する」だが、これについて、意見等はないようなので、次に進める。

「・周辺の環境を整備する」についてだが、意見等はあるか。

【丸山委員】

海岸の道路から親鸞聖人上陸の地へ上がる道を整備してほしい。郷津から上がる道があるが、狭いので拡幅していただきたいのと、水族館側から西側へ上がっていく道を作っていたきたい。個人の土地だと思うが、空地はある。

水族館から親鸞聖人上陸の地へ上がる道を造っていただくと、居多神社に出る。

【青山副会長】

大型バスは通れるのか。

【丸山委員】

通行禁止にはなっていないが、通っているバスもいる。大型バスもスムーズに通れる道を作っていたきたい。

郷津から上がる道と水族館から上がってくる道を整備していただきたい。

【今井委員】

親鸞聖人上陸の地の道よりも、郷津のほうの道が拡がりやすい。

【丸山委員】

お客さんを捌くとなると、今井委員の発言のように、いろいろ考えられるが、親鸞聖人上陸の地や居多神社等にもお客さんに来てほしいので、お願いしたい。

【町屋委員】

親鸞聖人上陸の地に大型バスも入れるが、交通量が増えたら、近隣の人はどうなるのか。今のアクセスを良くしてしまうと、みんなそちらへ流れてそこで渋滞が起きる気がする。その道を整備したら、そこを通ってください。ということにならないか。

【小林委員】

丸山委員の気持ちも分かるが、実現は難しいと思う。

【増田会長】

問題は、渋滞対策や迂回対策をどうするか。その先に出口を造らないと、行く先々で渋滞になってしまう。前回、その認識が、新水族博物館整備課では「十分考えている」とし、「交通量を見て、県と相談する」と言われていたので、それが、今後の地域協議会の最重要課題になると思う。いずれにしても、私達は、水族館が出来たからと喜ぶだけではなく、住民の日常生活に支障が出ないように、最大限の配慮をしなければならない。その辺は、十分やっていきたいと思う。

次に「・その他の施策」だが、意見等はあるか。

【三上委員】

雁木がかなり凸凹しているので、その段差を整備していただきたい。

【田村利男委員】

雁木は個人のものであり、歩道ではないと思っている。

【町屋委員】

個人の所有物だということは分かるが、他区から来た人たちに、それは通用しない。歩きづらい、ということに間違いがないのであれば、何とかしなければいけない。

【増田会長】

何故、このような書き方にしたのかと言うと、「雁木整備」と「雁木の歩道の段差解消」の補助金制度がある。直江津の人は知らないかもしれないが、高田は実際に使ってやっている。

【町屋委員】

「①」の空き家の件だが、いろいろなところで、空き家対策やシャッター通り対策をしている、という話は聞く。データベース化というのは賛成だが、「支援」ということになると、どういう形でどこまで支援するのか、という具体的な部分まであって、初めて成り立つものだと思う。

【増田会長】

支援制度まで考えるところまで行っていない。5年くらい前に、空き家活用の家賃補助や修繕費補助の制度があった。高田は空き家の見学ツアーをやっている。そういうことを活かしてもらおうことになると思う。

町内会長は、空き家の持ち主は誰で、どこへ連絡したらいいのか分からなくて困っていると聞いたので、商店だけのデータベースではなく、民家のデータベースも含めて提案して行ったらと考えている。

【池田委員】

雁木で言えば、本町通りから入る道の上もアーケードが付いている所があり、これは大事だと思った。できれば、雁木がなくなっている箇所が所々あるが、そういうところもアーケードで繋いでいただきたい。水族館へ行くのに一番問題になるのが、イトーヨーカードー近くの交差点が青天井なので、屋根を整備してもらいたい。せめて、雨宿りが出来るくらいの場所が欲しい。

【増田会長】

端的に言うと、信号待ちの人用に雨よけの屋根を造る、ということだと思う。

【町屋委員】

全部付けられないのなら、せめて、信号待ちの場所だけで付けてほしい、と言われてもイメージが湧かない。

【増田会長】

構想から言うと、駅から水族館まで、雁木風の屋根を付けてほしい、というのが本来の要望である。

【池田委員】

各町内で、お茶会などの席が計画されているが、あまり参加人数がいないので、別の町内会へも案内をしていた。このように、すぐ近くの町内でも交流でき、しかも、観光にも使えるように拡げてはどうかと思っている。

【増田会長】

それは、「・おもてなし施設等を整備する」の『③街中の各所にお休み処を設置して…』の中で、順次進めて行くということになる。先に、町内でやっている所を使わせていただきたい、という話になると、イメージ的に良くない。

【町屋委員】

雁木の段差の問題があるが、歩道は何かと言ったら、私有地である。本来であれば、歩く人のために提供する場だが、例えば自転車がどこを走るかと言ったら、雁木が整備されても通ってはいけない。今もそうだが、車道と雁木の間には白線が引いてある。安国寺の通りを考えていただくと、電信柱があるために車道に出ざるを得ないことを考えると、一番良いのが、電線の地中化である。直江津の街の道路を拡げられない以上は、最善の策だと思う。段差がなくなり、通れるようになっても、自転車が通ることは、法律上駄目である。

【増田会長】

では、景観と安全の面から「電線の地中化」を追加項目とする。

他にはいかがか。

(意見なし)

では、あとで、気が付いたものがあれば言っていただきたい。

扱いについては、意見書を出すことについては、協議会内で確認していただいている。今日、中身の確認をしていただきたいので、事務局で整理し、正・副会長で再度確認し、提出するということにしたいが、よろしいか。

(異議なし)

【竹内副会長】

確認だが、「・案内看板等を整備する」と「・おもてなし施設等を整備する」は、このまま載せるのか。

【増田会長】

重複している部分もあるが、抜けないように、承知の上で全部載せる。

では、この件は、以上で終了とする。

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

【荒木係長】

- ・次回協議会について説明
- ・次回協議会：4月13日（水）午後5時～

【増田会長】

私からお知らせだが、すでに新聞等の報道や、前回、直江津学びの交流館の館長が来て話をしたとおり、J Tの跡地については、市が購入する方向である、ということだが、3月議会の市長の答弁の中で、「約千坪あり、使い方については、市民の皆さんから公募する」という発言だった。具体的にどういうことか、と産業振興課へ確認してもらったところ、「それ以上のことは、何も決まっていない」という返答だった。決まり次第、地域協議会に対して説明してもらおうと思っている。何故かと言うと、単に駐車場だけではなく、中心市街地活性化の計画を絡ませようということがあるらしく、しっかり整理したいと思っている。

そして、レインボーセンターの駐車場についても、満車になることが多く、不便だ、という声もあるので、どこかで、皆さんと意見交換をしながら、解決策を考えていきたいと思っている。

【泉委員】

一点確認だが、今回の提案の中に、「レンタサイクル」や「クルージング」、「ホームページ」の話が入っていると思うが、すでに計画の中に入っている。それも重複していいのか。ホームページは、我々よりも遥かに先を進んでおり、W i - F i 環境の強化まで行っている。後追いになってしまうが、それでもいいのか。

【増田会長】

直江津区地域協議会として全部網羅している、ということを見てもらうために、重複

しているが、全部載せる、というスタンスで行きたいと思っている。

他に事務局から何かあるか。

【荒木係長】

4月の人事異動で星野主任が異動になるので、挨拶させていただきたい。

【星野主任】

- ・4月1日付けの異動にあたり、挨拶

【増田会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。